

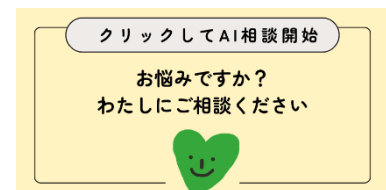
2026年5月12日
一般財団法人ギャンブル依存症予防回復支援センター
ティーベック株式会社

毎年5月14日から20日はギャンブル等依存症問題啓発週間

【データ公開】ギャンブル依存症予防回復支援センターHPにて AIチャットボット相談機能の本格運用を開始

これまでの相談ノウハウを活かして設計したAI相談で“人に相談する前”を支え、
早期サポートの取りこぼしを防止

一般財団法人ギャンブル依存症予防回復支援センター（東京都港区、理事長：藤井 昌広、以下「ギャンブル依存症予防回復支援センター」）とティーベック株式会社（本社：東京都台東区、代表取締役社長：鼠家 和彦）は、2026年5月14日より、ギャンブル依存症予防回復支援センターのホームページ（<https://www.gaprsc.or.jp>）にて「AIチャットボット相談機能」の本格運用を開始いたします。



ギャンブル依存に苦しむ方が「やめたい」と思えるタイミングは非常に短く、その機会はすぐに過ぎ去ってしまうことがあります。ギャンブル依存症予防回復支援センターではこれまで、専用のサポートコールサービスにて24時間365日、臨床心理士などの心理カウンセラーが無料で電話相談の対応を行っていましたが、「いきなり人に相談するのは勇気がいる」という心理的ハードルも存在していました。

こうした課題を踏まえ、専門家に相談する一歩手前の気軽さで相談していただけるよう、AIチャットボット相談機能の開発に着手。これまでのサポートコールでの相談対応で培った知見をもとに設計し、自然な対話形式で相談をしていただけるよう開発を進め、2026年3月からのトライアル運用を実施しておりました。そしてこの度、5月14日より本格運用を開始いたします。

なお、トライアル期間の約2か月間で延べ1,500名以上の方からの相談を受付けており、利用データは別紙の通りとなっております。

ギャンブル依存症予防回復支援センターは本機能の提供をはじめとして早期の気づきと適切な支援につながる環境づくりを推進し、今後もギャンブル依存症の予防と回復に貢献してまいります。

■ギャンブル依存症 AI チャットボット相談について

<ギャンブル依存症 AI チャットボット相談機能のポイント>

1. 35年以上の相談実績があるティーベックが開発

AIチャットボット相談の設問・回答には、サポートコールを受託するティーベックがこれまで培ってきた相談対応のノウハウを反映しています。実際に現場で相談対応を行う心理カウンセラーが作成したギャンブル依存に関するFAQ等の情報をあらかじめAIに学習させており、ギャンブル依存に関する質問やお悩みごとに合わせて、AI相談員が情報提供やアドバイスをします。*1

2. AIチャットボット相談から人への相談がスムーズ

AIチャットボット相談を利用する中で、より具体的に相談したい場合や人の対応が必要と判断される場合は、AI相談員がサポートコールの利用を提案し、心理カウンセラーへの相談を促します。当事者の「助けて」という声を受け止め、より早く専門支援につなげることを目指します。

3. 東京大学との研究知見をAIに活用

ティーベックは、東京大学大学院医学系研究科が主催する社会連携講座「デジタルメンタルヘルズ講座」に2022年から参画。メンタルヘルズ領域におけるAI研究の知見を、本AIチャットボットの開発・運営に活かしています。また、安心・安全に利用できる運用体制も整備しています。

<参考> 東京大学大学院医学系研究科社会連携講座デジタルメンタルヘルズ講座

<https://dmh.m.u-tokyo.ac.jp/>

*1 本AIチャットボットを通じて提供される情報は、一般的な健康情報または参考情報であり、医学的診断、治療、予防その他の医療行為を目的とするものではありません。また、正確性、完全性、有用性について保証するものではありません。ご利用にあたっては必ず利用規約を確認し同意のうえご利用ください。なお、本AIチャットボットは将来予告なく変更、中止する場合があります。

■一般財団法人ギャンブル依存症予防回復支援センター

<https://www.gaprsc.or.jp>

ギャンブル依存症の予防および回復支援を目的として2017年に設立された団体です。

依存症に悩む本人やご家族に向けて、24時間365日対応の電話相談窓口の運営をはじめ、情報提供や

支援機関への橋渡しなど、早期発見・早期支援につながる取り組みを行っています。

※ギャンブル依存症サポートコールについて

<https://www.gaprsc.or.jp/supportcall/supportcall.html>

「ギャンブル依存症サポートコール」は、一般財団法人ギャンブル依存症予防回復支援センターがティーベック株式会社に委託し運営しています。ご本人やご家族が抱える問題の解決をサポートするため、24 時間 365 日・相談料無料で、臨床心理士など資格を持つ心理カウンセラーが対応します。

■ティーベック株式会社

<https://www.t-pec.co.jp/>

24 時間健康相談事業のパイオニアとして 1989 年に設立。医師・保健師・看護師などの医療資格者を有するコンタクトセンターを運営し、セカンドオピニオン手配サービスやメンタルカウンセリング、生活習慣病の重症化予防など、健康・医療分野における社会課題の解決を目的とした事業を多数展開。2017 年から 10 年連続で「健康経営優良法人」に認定。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

ティーベック株式会社 <https://www.t-pec.co.jp/> （担当：経営企画部）

〒110-0005 東京都台東区上野 5 丁目 6 番 10 号

メール：info-pr@t-pec.co.jp

【別紙】

トライアル期間2か月間の相談データ (2026年3月2日～4月30日まで利用者総数のべ1,519名)

■利用概況

AIチャットボット相談機能によるギャンブル依存に関する相談は20代から50代まで幅広い年代に分布し、本人からの相談に加え、家族からの相談も一定数存在することが明らかとなりました。特に相談対象者は男性が多く、家族が子どもや配偶者の問題に直面しているケースも多く見られます。

また、サポートコールに比べ、AIチャットボットでは女性からの相談の比率が高い結果となりました。今後の動向についても、引き続き注視してまいります。

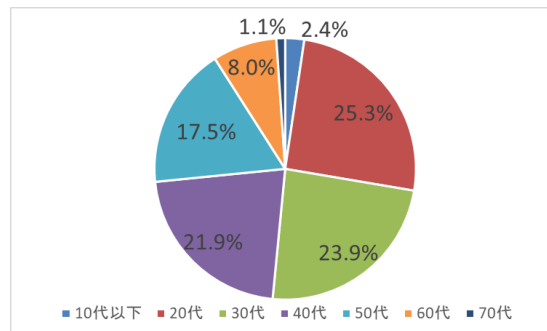
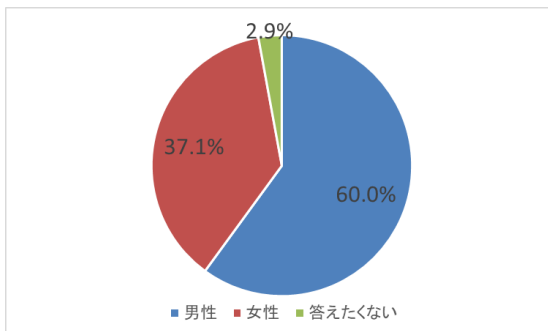
相談内容は、「やめたいのにやめられない」といった依存の自覚がある段階から、借金など緊急性の高い問題、さらには不安や罪悪感といった心理的な悩み、予防的な相談まで多岐にわたっており、相談ニーズが段階的かつ多層的であることが示唆されました。

これらの結果から、本人だけでなく家族も含め、「人に相談する前」の段階から気軽にアクセスできる相談窓口のニーズとそれに応える本機能が、ギャンブル依存症の予防・回復に有効であると考えられます。

■詳細利用データ

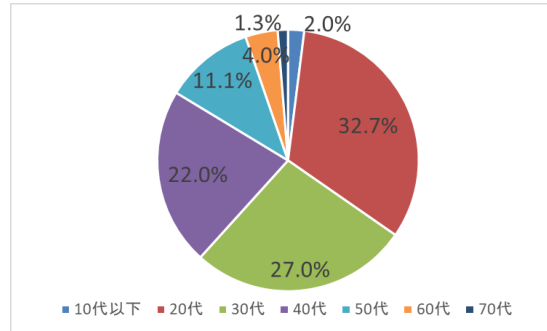
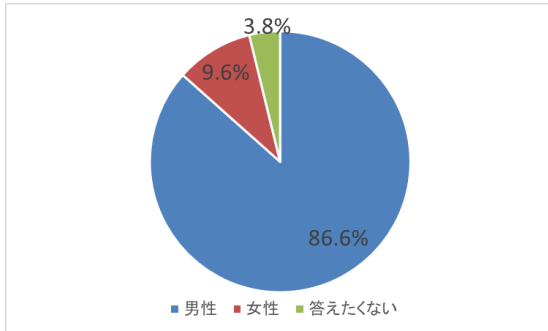
・相談者属性（性別・年代別）

性別で見ると、男性の割合のほうが高くなっています。年代別では20代～40代までがボリュームゾーンですが、若年層（～30代まで）が半数以上を占めています。



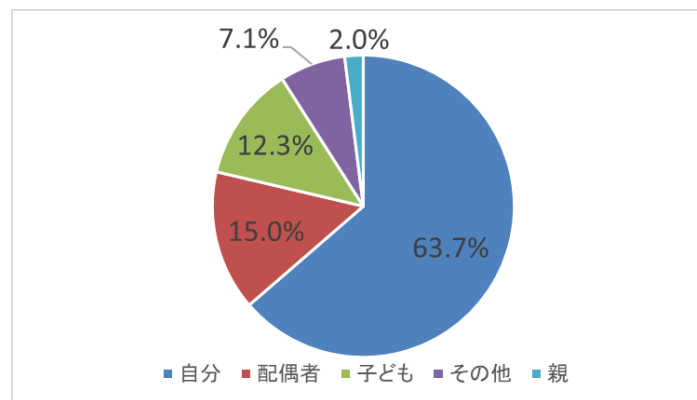
・相談対象者属性（性別・年代別）

性別で見ると、男性の割合が圧倒的に高くなっています。年代別では10～30代で6割以上を占めています。



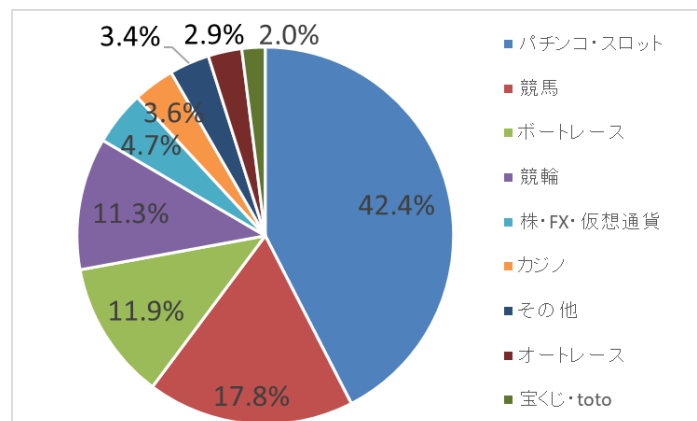
・続柄

続柄を見ると、本人からの相談が最も多くなっていますが、家族（配偶者や子ども）からの相談も一定の割合を占めています。



・利用しているギャンブル種（複数回答あり）

パチンコ・スロットが最も多く、次いで競馬、ポートレースが続きます。



・主な相談内容

実際の相談ログによる主な相談内容のカテゴリ別ラインナップは次の通りです。

- ・ やめたい・コントロールできない（ある程度依存の自覚がある方）

「やめたいのにやめられない」「気づいたらお金を使ってしまう」「負けを取り返そうとしてしまう」「どうしたらやめられる？」「受診は必要？」

- ・ 借金、金銭問題（すぐ支援につなぐべき方）

「借金が増えてしまった」「生活費まで使ってしまう」「家族にバレそう」「債務整理したほうがいい？」

- ・ 家族からの相談（本人ではなく“周囲が困っている”ケース）

「夫（妻）がギャンブルをやめない」「子どもが課金・ギャンブルに依存している」「親が借金している」「どう接すればいいかわからない」

- ・ 不安・罪悪感・メンタル系（心理的な苦しさがありメンタルケアが重要な方）

「自己嫌悪がつらい」「誰にも相談できない」「人生終わった気がする」「仕事に集中できない」

- ・ 軽度・予防的な相談（予防・早期介入層で、一定数の相談がある）

「このままだと依存になりますか？」「どのくらいなら問題ない？」「ルールを決めたい」